

2018年8月19日

立教大学国際学術研究交流制度
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	異文化コミュニケーション学部・准教授
	氏名	松下 佳世
受入学部・研究科・研究所		異文化コミュニケーション学部
招へい 研究員	所属・職	Professor, Translation Programme, English Department, Hong Kong Baptist University 所属機関所在国：中国（香港）
	氏名	Minhua Liu
招へい期間		2018年7月9日～2018年8月8日（31日間）
研究経費		658,200円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2018/07/09	来日
2018/07/11	学部生・博士前期課程院生向け講義「From language learner to interpreter to interpreter trainer」（X108教室、参加者は教員・学生約15名）
2018/07/18	学部生・博士前期課程院生向け講義「From research topics to research questions: Finding a focus for research」（X108教室、参加者は教員・学生約20名）
2018/07/28	博士後期課程勉強会にて研究指導（D601教室、教員2名、博士後期課程院生5名）
2018/08/04	公開講演会「What does research say about interpreters – their brain, their work and their profession?」（7301教室、参加者は教員・学生・一般約25名）
2018/08/08	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

今回招聘した香港バプテスト大学教授の Min-hua Liu 先生は、国際的な通訳研究者であると同時に、米国・台湾・香港の4大学で通訳者の養成に携わった経験を持つ教育者でもある。本学では、異文化コミュニケーション学部・研究科において、通訳研究ならびに通訳者の養成に力をいれていることから、Liu 先生には研究と教育の両面で学生と積極的に関わることを期待し、招聘した。第一週から第二週にかけては、卒業論文を執筆中の学部ゼミ生、ならびに修士論文に取り組んでいる博士前期課程の院生を対象に、二度の講義をお願いした。初回は、自らの半生を振り返りながら、通訳者を目指したきっかけや、大学時代の学び、その後の研究者・教育者としての歩みを丁寧に振り返る内容で、将来の進路を模索している学生・院生たちも共感しながら聞いていた（7/11）。二回目は、Liu 先生が自ら指導してきた学部や大学院での論文を具体的に示しながら、リサーチ・クエスチョンの立て方や、研究方法の選び方など、事例を交えて解説する内容で、論文を執筆中の学生・院生からは多くの質問が飛び出した（7/18）。

Liu 先生は現在、通訳研究において最も権威のある国際学術雑誌の一つである *Interpreting: International Journal of Research and Practice in Interpreting* の共同編集長を務めている。このため、博士後期課程の院生に対してはより具体的かつ個別的に研究指導を行っていただこうと、PhD 勉強会を企画した。博士論文に取り組んでいる五名の院生が、英語で自らの研究内容を発表し、それぞれの発表について Liu 先生から詳しい講評とアドバイスをいただいた（7/28）。現在、通訳翻訳領域では専任教員二名と特任教員一名が博士論文の指導を行っているが、継続的に指導をしている教員とは別の専門家と質疑応答を行う経験は院生たちにとっても刺激的だったようで、終了後も Liu 先生をつかまえて話し込む姿が見られた。尚、Liu 先生の滞在期間中は、学部から博士後期課程にいたるまで、各学生・院生はいつでも相談を受けられることとし、メールや面談を通じてマンツーマン指導を受けられる体制を整えた。

学生や教職員との交流だけでなく、日本の通訳研究の活性化にも貢献できるようにと、公開講演会も開催した（8/4）。夏季休暇中で、猛暑の最中にも関わらず、研究者や実務者約 25 名が立教に足を運んでくれた。90 分という長時間の講演は、30 を超える先行文献を紐解きながら、過去半世紀の通訳研究史を概観するとともに、脳科学的なアプローチなど最新の研究トレンドも紹介するなど盛りだくさんの内容で、講演の最中にも参加者からは次々に質問が投げかけられた。参加者の中には、その様子を自らの HP やブログ、SNS で紹介する人もいて、本学の取り組みが広く知れ渡ると同時に、通訳研究というまだ比較的歴史の浅い学問領域において、積極的な活動や意欲的な取り組みが行われていることが伝わったのではないかと思う。

上記のような効果が得られたことから、今回の招聘は非常に実りの多いものとなったのではないかと考えている。招聘の実現に尽力していただいた皆さんに心から感謝したい。

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

特になし。

<7月18日 講義の様子>



<8月4日 公開講演会の様子>

